

# チョウセンアカシジミって

# どんなチョウ?

今回はチョウセンアカシジミについて勉強している普代小6年の三船和輝君と鳥茂渡小6年の落合勇樹君の二人に協力してもらい、この特集を進めていきたいと思ひます。じゃあ、二人ともよろしくお願ひします。

三船和輝君(普代小6年)



チョウセンアカシジミ大好きのぼくたちが一緒にレポートします。よろしくお願ひします。



落合勇樹君(鳥茂渡小6年)

三船君 ぼくは去年のチョウセン

アカシジミの観察会に参加していろいろ勉強したので、これから説明します。ちゃんと読んでくださいね。

## 小さくてオレンジ色

チョウセンアカシジミは鱗翅目・シジミチョウ科のチョウで、



チョウセンアカシジミの分布図

ロシア沿海州南部、朝鮮半島、中国、日本に生息し、日本海を取り巻くような形で分布する珍しい種類のチョウです。

日本では岩手、山形、新潟の各県の一部にしかいません。岩手では久慈市、野田村、田野畑村、岩泉町、田老町、宮古市、滝沢村、雫石町、そして普代村だけに住んでいます。普代はこれの中でもたく

さん住んでいるんです。

羽を広げた大きさは約3・5センチ。羽の両面がオレンジ色のちっちゃなかわいいチョウです。

チョウセンアカシジミはデフノトネリコという木を食草とし、年1回発生します。最盛期は7月上旬から中旬です。天気の良い午後2時から5時ごろまで活発に飛び回ります。

## デフノトネリコ



チョウセンアカシジミの幼虫が食べるのはデフノトネリコという木の葉だけです。幹はまだらになっていて、見なれてくるとすぐ分かります。そして、この木にだけに産卵します。

この木は昔は湿地帯に多く自生し、また水田のあぜ道によく植えられて、イネを掛けたり、クワなどの柄に使われていました。でも、湿地帯の減少や農業の機械化に伴い、チョウとともにどんどん姿を消していきました。

チョウセンアカシジミはかろうじて川沿いに残った木を頼りに生き延びてきましたが、最近では川や道路の改修工事などで、それらの木も少なくなり、生き延びてゆくには大変難しい状況になっています。

チョウは1メートルから2メートルの高さの木に産卵することが多く、植樹や観察は比較的簡単のため、子どもたちでも植樹や自然保護が十分できます。



鉄道のり面のトネリコの木



幹はまだら模様になっています